芽枯病（シャクナゲ類）

ハクサンシャクナゲ芽枯病

花芽が褐変枯死するため，春になっても芽吹かず，花付きが悪くなる。罹病枯死した芽には，やがて黒いひげ状の菌体が密生して生じる。菌体の頂端には丸い灰色の胞子の塊がつく。本病は，東北地方では，レンゲツツジに激しい被害を与えることが知られているが，北海道では，ツツジ類での発生は未確認である。

【病原菌】 *Pycnostysanus azaleae*
【罹病樹種】 ハクサンシャクナゲ
【発生地域】 十勝，日高

【防除】
罹病枯死した花芽に形成される菌体が感染源になる。春，ひげ状の菌体が形成される前に，枯死芽を摘み取って焼却するか，土中に埋める。

北海道立林業試験場・緑化樹センター